

「えみふるふぁいる」支援者向け説明会

令和4年度 実施状況

資料A

	小中学校	幼稚園	保育所	療育機関（児童デイ）
実施日	令和4年6月8日 ～「特別支援教育推進委員会」にて	令和4年7月28日 ～幼稚園対象の別の研修会と同時開催	令和4年10月5日 ～保育所対象の別の研修会と同時開催	令和5年2月16日 ～事業所部会にて
場所	教育研究所 小運動場	教育委員会 会議室	であえるホール	教育研究所 小運動場
対象	特別支援コーディネーター21名	副園長、教頭、主任、担任 5園9名	主任または担任 16園15名 ※2園を担当する参加者が1名	通所支援事業所21名 相談支援事業所2名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ふぁいるの概要のおさらい ・就学時健診での導入の構想を説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふぁいるの概要のおさらい ・オプションシート「成長曲線シート」「懇談の記録」の活用を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふぁいるの概要やビジョンを説明 ・オプションシート「成長曲線シート」「懇談の記録」の活用を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふぁいるの概要のおさらい ・連携におけるふぁいるの位置づけについて説明 ・「個別支援計画書」を綴じる提案
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーター向けの説明会は、これまでも回数を重ねてきている。昨年度はオンラインで実施。 ・「えみふるふぁいる」への関心や期待は高く、アンケートには「既に活用している」という声も挙がった。 ・令和7年度新1年生が、全員配布になって初めての世代のため、小中学校はそこから本格始動となる見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は園長・副園長のみ参加だったが、今回は実際に発達支援に携わる教諭らも参加。 ・園側には「新入園児の発達状況を知りたい」というニーズがあり、そうした情報源として「えみふるふぁいる」に期待が高いとわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所は、園長・施設長や一部の保育士向けの説明会は過去におこなっているが、主任保育士など“園内で発達支援の中心となる保育士”に対して、直接説明するのは今回が初めて。そのため、参加者の「えみふるふぁいる」の認知度や馴染みの低さが感じられた。 ・説明会の後、別の機会に保育園を訪問した際、「主任から聞いて懇談でえみふるふぁいる使ってみました！保護者との話が深まりました！」と声をかけてくれた保育士がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は、発達支援を専門とする立場であり、「えみふるふぁいる」のビジョンについては賛同を得やすかった。 ・実際の療育場面ではほぼ活用されていないと分かった（まだ持っている子どもも少ないと予想される）。 ・半年に1度必ず保護者に提供することになっている「個別支援計画書」について、今後「えみふるふぁいる」に綴じるよう声掛けしてほしいと提案すると、前向きな反応だった。

(1)幼稚園新入園児面談にて

A 幼稚園	取り組みの内容	新入園児 願書受付の面談で活用 (R2.11月～開始)
	現場の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 初めて説明会に参加したとき「1歳6か月児健診の情報を得られる」と聞き、「これは良い!」と思って始めた。 ● 初めは綴られている問診票を見ても、どこを見ていいのかわからず「欲しい情報が得られない」と感じたが、R3年の説明会で“保護者が気になっていることを書く欄”や“子育ての協力・相談環境を書く欄”などポイントを絞って見ると良いと知り、今はとても有効に活用できている。
B 幼稚園	取り組みの内容	新入園児 願書受付の面談で活用 (R3.11月～開始)
	現場の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 副園長・主幹教諭による面接で、保護者に見せてもらっている。 ● 1歳6か月児健診や3歳児健診の問診票のうち、“保護者が気になっていることを書く欄”や“保護者の心理的負担について書く欄”を注意して見るようにしている。何も手がかりがない状態ではこうした内容は聞きづらいため、手元にふぁいるがあると話を進めやすい。
C 幼稚園	取り組みの内容	新入園児 願書受付の面談で活用 (R4.11月～開始) ※今後、年に2回(4月と3月)の保護者総会で「ふぁいる」活用を促していく予定
	現場の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前のお知らせに“持ち物”の1つとして記載している。ほとんどの保護者が持参してくれている。 ● 1歳6か月児健診や3歳児健診の問診票は参考になる。子育て総合支援センターでおこなっている”療育支援教室うずら“に通っている子は、その資料が入っているため、保護者と通っていた経緯など話し合うことができ良い。

* 2023.2 調査

(2) 就学时健診にて

① 就学时健康診断への導入の計画

≪R3年度 専門部会より≫

小学校で毎年おこなう「就学时健診」は、新1年生全員が対象であり、導入もできるかもしれない。

全員ふあいるをもっている初めの世代



令和7年度 小学新1年生

令和4年度	実際の就学时健康診断場面を視察
〃 5年度	周知方法、問合せ窓口、なくした人への対応など詳細を具体化
〃 6年度	10月の就学时健康診断で実施（予定）
〃 7年度	初めの世代が小学校入学（予定）

※実現すれば、「次は就学时健康診断で使うのでとっておいてください」と3歳児健診で声掛け

② 令和4年度 視察より

日時：令和4年10月1日（土）

場所：東小学校

内容：受付は市教委、案内や視力検査等は教員。

親子は順不同で、問診票をもって健診項目を回る。

すべての健診項目が終わったら、親子は受付へ戻り、記入済みの問診票を受付けへ提出。

問診票は2枚複写になっており、受付は保護者用控えを切り離し保護者へ返す。

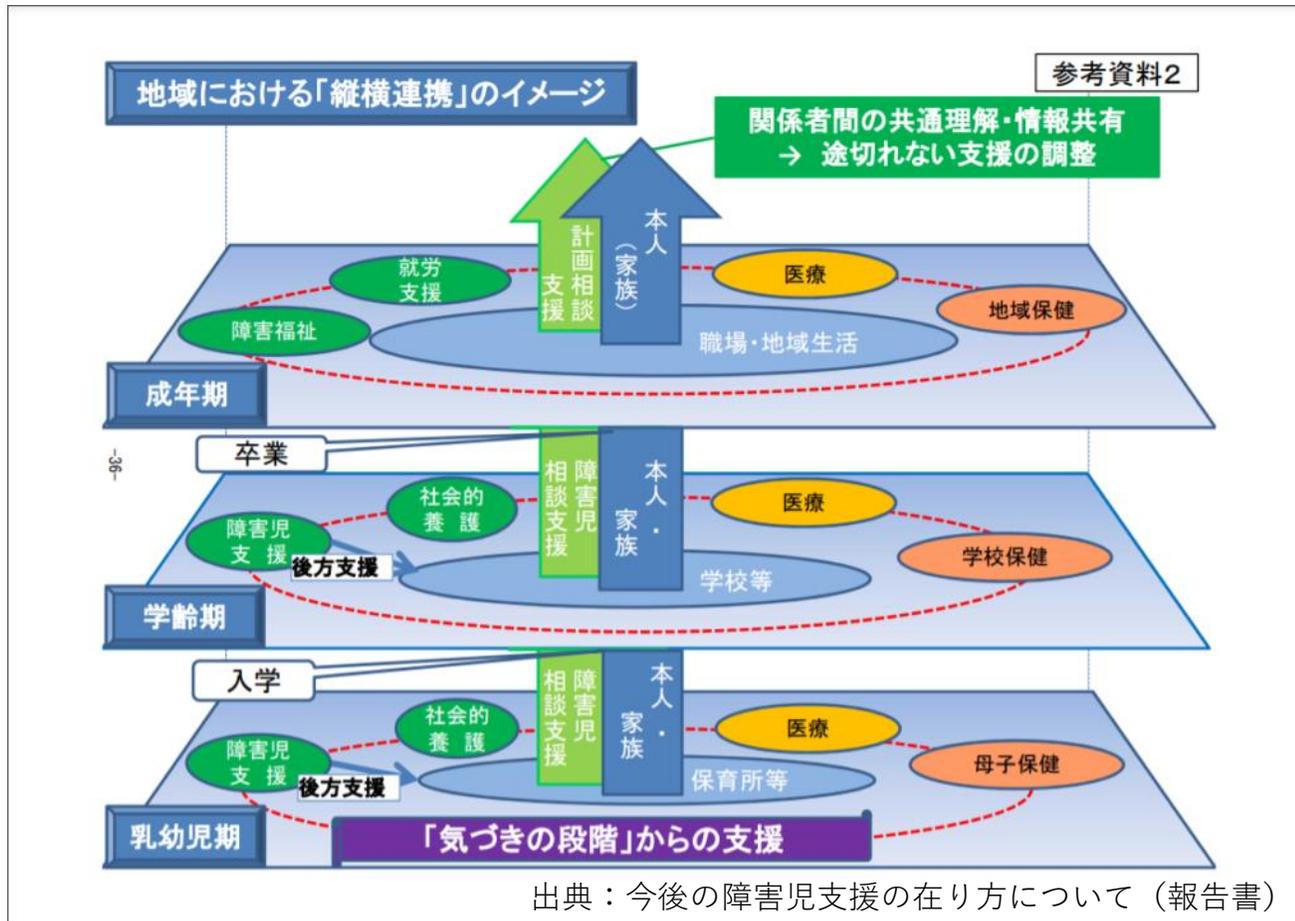


保護者用控えを「えみふるふあいる」に綴じる

【健診会場の様子】

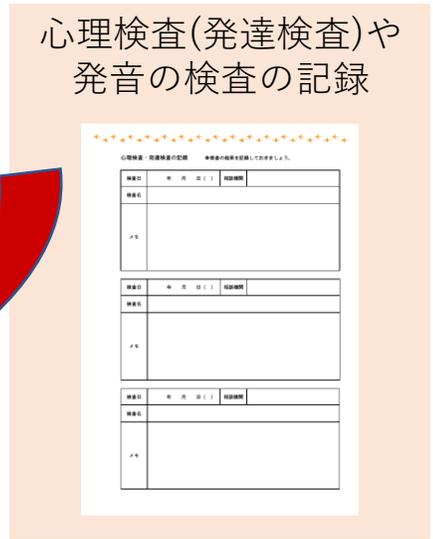
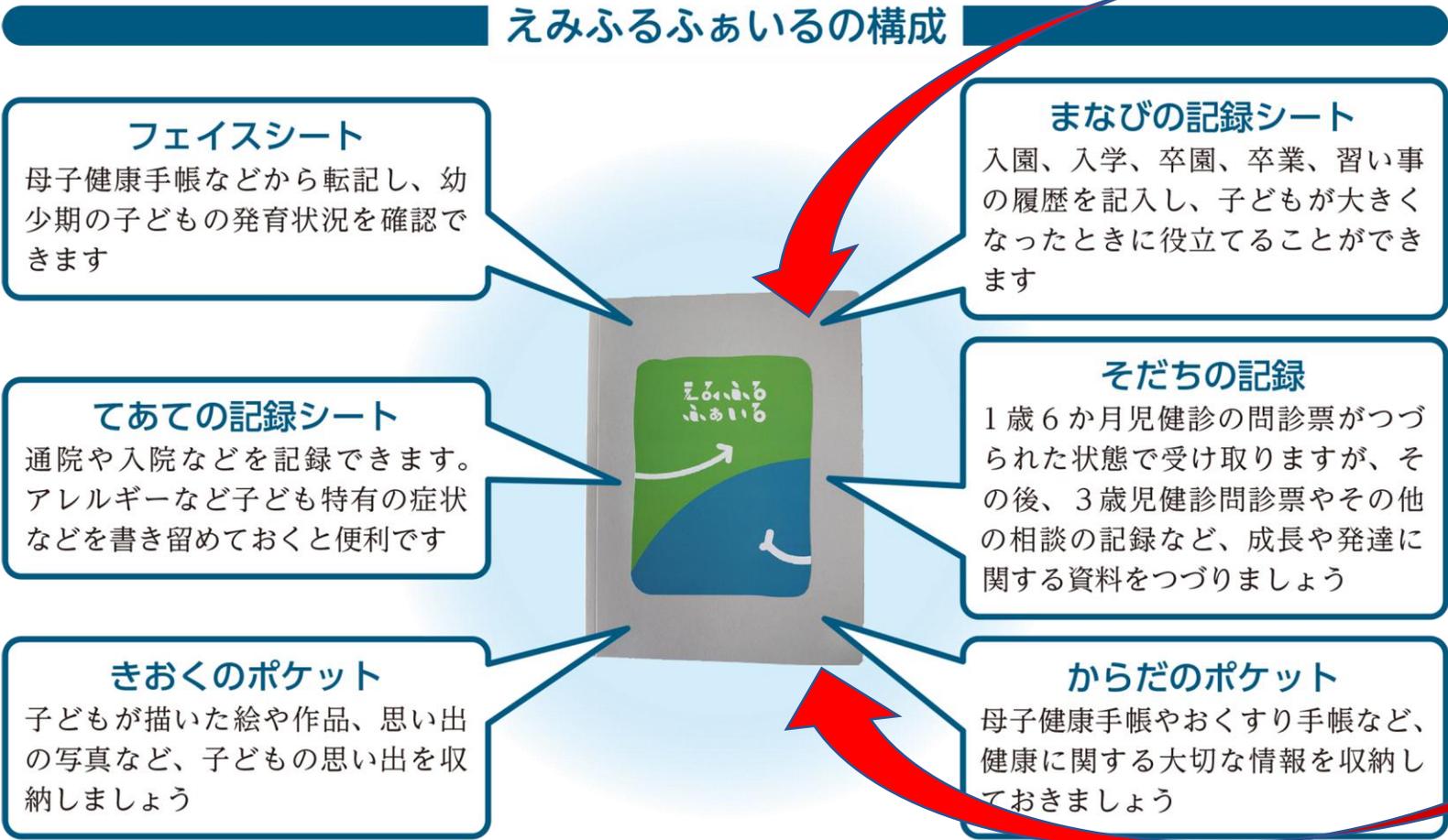


1. 発達支援におけるタテ・ヨコの連携



えみふるふあいる = 切れ目ない支援の助けとなるツール

2. えみふるふあいるの構成



えみふるふあいる = その子だけの成長と発達の記録・記憶

3. 学校現場からの声

就学相談や入学後の教育相談で、「えみふるふぁいる」を持参し見せてくれる保護者の方が増えてきた。相談歴がわかると話が進めやすく効果を感じている。

学校で作成している「個別の教育支援計画」と一緒に綴じられるところが良い。

通常級のうちは保護者も意識していないため、いざ支援級になってから幼少期の困り感を聞いても思い出せない。

就労のときに良い情報になると思った。



えみふるふぁいる = 後になればなるほど必要になるもの

保護者と支援者が共に「ふぁいる」を作っていく

支援者は「その子のために」
保護者にはらきかけていく

面談で…「えみふるふぁいるを持ってきてください」

書類を渡すとき…「えみふるふぁいるに綴じてくださいね」

持ち続けてもらうために…「就学後も使うみたいですよ」



えみふるふぁいる = その子の今後の支援のためのもの